

ス
タ
ー

いつの間にか私はスターと呼ばれるようになっていた。けれど身分は相変わらず大部屋所属の研究生。主役を掛け持ちしてもギャラはなく、月に研究費として4500円

私の履歴書

こ 子
けい 恵
きし 岸

⑩

人気者、でも研究生扱い

ギャラの差にあぜんもめげず

を支給されるだけだった。「それも3回に分けて1500円。ロケに2400円の手当が出たの覚えてる？ ニコヨンだって大笑いしたわね」去年、私の舞台「わりなき恋」を見て来てくれた小園蓉子さんと昔話に花が咲いた。待遇に不満はなかった。不

「君が出ている映画の監督だよ。電車の中で君のすぐ後ろに座っていたらしい」「きゃー、そんな偉い人が三等車に乗ってたんですか」私のトンチンカンな反応に高村所長が苦笑いした。

その映画は「相惚れトコトン同志」。監督は鬼才とうたわれた川島雄三さんだった。別の日、また所長に呼ばれた。「何を怒られるのか」と

満は映画の内容だった。娯楽が少くないこの時代。2、3本立ての大量生産が当たり前でお粗末な内容が多かった。電車の中で私は大部屋の女優仲間と爆笑状態と言った。

「ヘンテコな題名のつまらない映画に出るのは嫌！」翌日、所長に叱られた。「電車の中で大監督の悪口を言っちゃいかんよ」「大監督って誰ですか」

「人気者なのに研究生扱いはないだろう」と佐田啓二さんが陳情してくれたいらしい。作品は覚えていないが初めてギャラをいただいた。50万円にはほど遠い3万円程度だったが「やっと女優になったかな」という感慨があった。

遠出のロケは相手役の車に乗せてもらった。ある日のロケ帰り、便乗させてもらった鶴田浩二さんに「なぜ暗い道



恋人役での共演が多かった鶴田浩二さんと

次の瞬間、私の片足がズブズブと冷たいところに落

を走るの？ ネオンのキラキラした街を走りたい」と言った。「ここは山の中なんだ」と困惑する鶴田さんに私は日ごろの思いをぶちまけた。

「銀座の真ん中を鶴田さんと2人で歩いてみたい」「恐ろしいことを言うお嬢さんだね」「なぜ天下の大道を2人で

「あせ道から肥やしをまいた田んぼに落ちたんだよ」「なぜ天下の嶮に肥やしをまいた田んぼがあるの！」満天の星とロマンチックと